人工衛星GeoEye-1がとらえた「福岡空港周辺」(2)

データ提供：日本スペースイメージング株式会社
データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

前掲の画像から「福岡空港第2ターミナル」を中心とした領域を切り出してみました。上側の画像は、GeoEye-1データから作成されたPan-sharpened image（地上分解能0.5m）です。この画像は、パンクロマチック画像（白黒：地上分解能0.5m）とマルチスペクトル画像（カラー：地上分解能2.0m）を合成したものです。また、下側は、高分解能衛星IKONOSから観測されるパンクロマチックデータの地上分解能（1.0m）に相当するシミュレーション画像です。地上分解能1.0mといえども画像全体が「ぼけ」てしまっています。これに対して、GeoEye-1データは鮮明であることがわかります。高分解能衛星データの地上分解能の違いは、このような画質の違いとなって現れます。観測高度681kmという遥か彼方から、人類はこのような精度で地上の様子を把握できる技術（リモートセンシング）を手に入れたことになります。